音の造形―古代アンデスの笛吹きボトル―

①

②

③

④

2023年9月13日(水)～11月5日(日)

倉敷考古館

9:00～17:00(入館締切16:30)
月、火曜日(祝日開館)

入館料：大人500円（400円/団体20名以上）
高・大学生400円（320円/団体20名以上）
小・中学生300円（240円/団体20名以上）

※本特別展をご覧になる際も追加費用は掛かりません。
★障がい者割引有り
手帳ご提示で御本人様・付添１人割引有り

岡山県立岡山盲学校ワークショップとハンズオン展示（1階）

音のかたまり―さわる笛吹きボトル―

「連携企画展」

笛吹きボトルについて

笛吹きボトルとは、南米大陸で栄えたアンデス文明の職人によって作られた内部構造が比較的複雑な土器です。ホイッスル（笛玉）を備え、土器内部で水と空気が移動する時に音を奏でます。笛吹きボトルの歴史は古く、今から約3000年前に遡ると考えられています。ボトルの形状と機能は、エクアドルとペルーにおいて紀元前10世紀ころから紀元後15世紀にかけて変化し続け、アンデス文明において少なくとも約2500年にわたって制作され続けました。壺の上部に笛玉が付いたものや、壺を連結させた双胴壺に笛玉が付いたものなど、その形状はバリエーション豊かです。笛玉も大小様々で奏でる音色も多様です。笛吹きボトルに共通する点は、いずれも動物や人間が土器に表現されていることです。なぜ、アンデスの人々は笛吹きボトルを造り続けたのでしょうか。先行研究から笛吹きボトルは、葬儀や儀式、祝祭に使用されたとされていますが、各文化における詳しい使用方法などはまだわかっていません。しかし古代アンデスの人々が土器づくりで音を重視し、楽しんでいたことは確かでしょう。古代アンデス文明では、視覚で理解する文字が発明されず、語られる声や動物の鳴き声など音がより重視される無文字の社会でした。だからこそ、長い間笛吹きボトルが製作され続けたのかもしれません。笛吹きボトルを通して、古代アンデスの「音の造形」の世界に触れてみませんか。

岡山県立岡山盲学校ワークショップ

2023年6月から3回にわたり、岡山県立盲学校において、「音のかたまり－さわる笛吹きボトル－」をテーマにワークショップが実施されました。視覚に障害のある子どもたちにとって、対象を手でさわること、そして素材を手でさわって感じながら作ることはとても大切なことです。また笛吹きボトルは形や重さ、素材感に加えて、音も大事な要素になります。
最初のワークショップでは、笛吹きボトルの生まれた古代アンデス地域と、その文化について考古学の専門的な講義を受けるとともに、実物の笛吹きボトルを手でさわって鑑賞しました。2回目のワークショップでは、子どもたちはそれぞれが思い描く笛吹きボトルを粘土で形づくり、お気に入りの音色を奏でる笛玉を取り付けました。最終回では、焼成し完成した笛吹きボトルを鑑賞し、みんなで音を楽しむこともできました。手でさわって耳で聞いて作り上げた子どもたちの音の造形をぜひご覧ください。

表面
①東海大学文明研究所 資料番号、9983-173【ワリ文化】
②倉敷考古館 資料、動物付き笛吹きボトル【チムー文化】
③BIZEN中南米美術館 資料、動物付き方形笛吹きボトル【チョレーラ文化】
④人物付き笛吹きボトル【チョレーラ文化】

［主催］ 倉敷考古館・岡山盲学校・BIZEN中南米美術・岡山県立大学・東海大学文明研究所
［後援］ エクアドル大使館・ペルー大使館・RSK山陽放送 TSCテレビせとうち・山陽新聞社・OHK岡山放送 倉敷ケーブルテレビ

150周年 1873 2023 日本ペルー外交関係樹立

科研費 KAKENHI
本展示は課題番号22H04453「笛吹きボトルの構造研究と音響解析から探る古代アンデスの水に関わる世界観」の研究成果を含むものである。

アクセス
〒710-0046倉敷市中央1-3-13
倉敷駅より徒歩約15分
お問い合わせ　倉敷考古館
電話：086-422-1542
自動車：倉敷ICより約20分、早島ICより約20分
専用駐車場がございませんので近隣の有料駐車場をご利用下さい。